

栃の木からの手紙

2019年 1月号



デルフィニュームの花の様に心静まる爽やかな青、蒼。冷たく凍る能取湖岸の蒼い氷の上に留まるオジロワシとオオワシ。上空にも多くの鷺が飛んでいる。能取岬から網走市二つ岩に向かう途中、オホーツク海、その向こうに知床連山を見渡す高台に自然農法の宿「あら鷺」があります。昨年の春先の総会の後に「あら鷺」を知り、今まで何度かその前を通っていましたが、漸く時期が来たのか「あら鷺」のご主人にお会いしました。この建物は、主人が若い時にこの地に遣って来て自分で設計建築した「あらわし造り」の宿になっています。今年も、宿のご主人の快諾を頂きましたので、6月頃には「あら鷺」の視察を予定させていただきます。

2日： 満月 旧11月15日

6日： 小寒 : 新月 旧12月1日

: 部分日食 始8時50分頃—終11時50分頃
最大食分10時20分頃

17日： 阪神淡路大震災（防災とボランティアの日）

20日： 大寒

21日： 満月 : 旧12月16日

1月 睦月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



昨年12月 8日（土）に、野菜ソムリエ上級プロ、管理栄養士の辻綾子さんを講師に迎えて新装の美幌町民会館で「健康セミナー」が開催されました。主催は、「報徳女性学級」。教育委員会の指導の下、本来は町内の各自治会に組織されている団体ですが、現在は報徳を含めて数団体しかありません。今回、大本の報徳からは役員含めて5名しか参加されませんでした。妻が学級長として1年活動している事なので私も協力して町の中心部の会場での開催で幅広く町民に呼び掛けて頂いた。美楽会の参加協力もあり、全20名の方が参加されました。

シナプソロジーインストラクターでもある辻さんの講演は、合間合間に簡単な運動を組み込んでいるので、聴く人の集中力が持続し易い特徴があります。

私も参加したのですが、簡単な運動？ 何処が？ 全然出来ない自分に、意識と行動が合わないめっちゃくちゃな自分にただ笑ってしまうばかりでした。

辻さんの出すジャンケンに負けて下さい。これだけの事？が何故か出来ない！…。 右手トントン、左手スリスリ。 ああ～、出来ない！…。



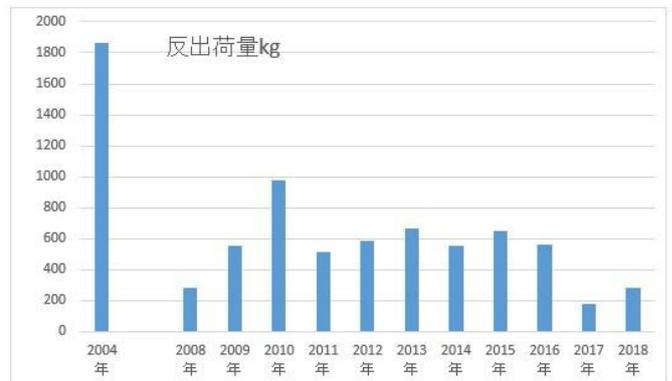
2018年作物の出荷量

2019年 1月号

【 きたあかり 出荷量 経年変化 】



自然農法 きたあかり 反出荷量 経年変化



出荷年	反出荷量kg
2004年	1860
2008年	285
2009年	555
2010年	974
2011年	512
2012年	582
2013年	669
2014年	550
2015年	652
2016年	558
2017年	182
2018年	279

新年早々お詫びですが、昨年の1月号で掲載しました「きたあかり 出荷量 経年変化」のグラフ等ですが、2018年分の追加作業中に2013年以後の数値が反当たりの出荷量に変換して無い事に気付きました。グラフとして自分に都合の良い状況に成っていた事を改めてお詫びして訂正いたします。

新年早々お詫びですが、昨年の1月号で掲載しました「きたあかり 出荷量 経年変化」のグラフ等ですが、2018年分の追加作業中に2013年以後の数値が反当たりの出荷量に変換して無い事に気付きました。グラフとして自分に都合の良い状況に成っていた事を改めてお詫びして訂正いたします。

作物名	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
とうや		425	653	924	1,790	2,014	230	240
きたあかり		667	582	1,912	2,640	2,084	2,175	167
さやあかね		1,222	501	1,881	1,130	650	2,305	193
ノーザンルビー	-	-	220	534	987	514	485	150
シャドークィーン	-	-	-	188	377	434	315	25
黒大豆				0	61	50	91	0

作物名	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
とうや	出荷kg 425 反収kg 8 面積a	980 653 15	924 525 17.6	1790 471 38	2016 458 44	230 59 39	240 176 58	221 115	
きたあかり	出荷kg 512 反収kg 25 面積a	1280 582 17	990 669 28.6	1912.8 650 48	2640 550 48	2086 652 32	2175 558 39	547 182 30	1368 279 49
さやあかね	出荷kg 1010 反収kg 63 面積a	6360 501 55	2757 832 19.8	1648 774 23	1780 640 52	3330 623 37	2305 222 44	975 874 47	4110
ノーザンルビー	出荷kg 0 反収kg 1 面積a	110 220 5	534.4 40 132.7	987.4 581 17	745 414 18	485 269 18	456 228 20	1095 365 30	
シャドークィーン	出荷kg 0 反収kg 1 面積a	0 0 3	188 137 13.7	377.6 210 18	375 188 20	315 175 18	30 25 12	271 194 14	
黒大豆	出荷kg 0 反収kg 4 面積a	0 0 6	74.3 124 13	150 115 16	91 57 24	0 0 24	90 41 22		

昨年は、芋の播種（5月16から18日）以後の生育期間の多くが低温・多雨傾向で推移して、7月後半の疫病の発生時期には記録的な高温乾燥が8月上旬まで続きました。その為か疫病が発生していても進行拡大しないで8月中下旬まで茎葉が残っていて芋の塊茎肥大に寄与したものと思われま

その為か疫病が発生していても進行拡大しないで8月中下旬まで茎葉が残っていて芋の塊茎肥大に寄与したものと思われま

- ・カッコウの初鳴き 5月 13日 (例年より 1週間程早い)
- ・降霜 (一般芋被害) 5月 21日 (早植え男爵、とうやで萌芽して地表に出たものは被害)
- ・蝦夷春セミ 5月 21日 (セミの姿を見た。(トラクターに当たり地面に落ちた))
- ・蝦夷春セミ 初鳴き 5月 27日 (2014年以前は、6月初めに鳴き出していたが、2015年からは、5月下旬に早まっています。)
- ・有機芋の播種 5月 16日 (とうや、ノーザンルビー)
- 5月 17日 (ノーザンルビー、降雨で中止)
- 5月 18日 (シャドークィーン、きたあかり、さやあかね)
- ・有機 黒大豆 播種 5月 27日 (播種後、ハト対策の為パオパオシートで被覆する。)

収穫を終えた晩秋は、何故か春先の様な気象。土手の草は枯れずに、ハコベやナズナの様な春先の草は一層元気に種を持っている。冬を忘れて春になったのか？

昨年は、雪融けが3月29日。その後雪が降っても直ぐに融け4月中旬後半から下旬は、一般のジャガイモの植付けを行いました。続けてビートの移植は5月1, 2日と作業が出来ましたがその後降雨で畑が乾かず9日まで作業ができませんでした。ビートの移植が終わったのは16日。有機JASのジャガイモは、16日から18日で播種を行い春の植付けが完了しました。

6月になると中旬からの日照不足、降雨と低温で作物の生育が停滞しました。

7月は下旬から猛暑が始まり8月上旬まで早魃状態が続き秋播き小麦は小粒、早生系の芋も小芋が多い状況でした。

そんな天候の中で自然農法の芋は、疫病の進行が遅く、例年より2週間程遅れた分、芋の生育が延びて小玉が多いものの収穫量が増えました。また、芋の形状も綺麗なものが多かったです。

暦 と 気象 に関する俚諺の一つに次の様なものがあります。

皆さんもちょっと心に留めて今年1年の気象、古人の思いを推測してみませんか？
目に見えない大切な事にころを向けて見ませんか？

☆ 雨量 と 地下水

雨量 ⇒ 旧正月元日から最初の未の日までの日数でその年の雨量を予知

元日 が 未 ⇒ 1合水 早魃

三日目が 未 ⇒ 3合水 早魃

十日目が 未 ⇒ 1升水 大水

地下水 ⇒ 正月元日 から最初の未の日の日数

2019年平成31年己亥		
旧正月	2月	5日
最初の未	2月15日	10日目
最初の未	1月10日	9日目
雨量	10	
_____	=	_____ ⇒ 大水
地下水	9	

☆ 旧正月 と 立春

2019年	
旧正月	2月 5日
立春	2月 4日

立春より早い ⇒ 春が早い 秋が短い
⇒ 立春と同じ頃 ⇒ 平年並み
立春より遅い ⇒ 春遅い 秋が長い 夏短い

☆ 豊作

- ・小寒の日（1月6日） 少し雨が降る ⇒ 麦 豊作
- ・小寒の日（寒の入り） 雪降るは ⇒ 豊作
- ・寒中に雷鳴 ⇒ 豊作
- ・寒中にしばしば雨降る ⇒ 春 豊作
- ・早魃 に 凶作なし
- ・旧暦閏年に 凶作なし （2017年は閏5月で5月が二回あり閏年）

☆ 凶作

- ・日蝕（1月6日、12月26日）ある年は ⇒ 凶作多い
- ・月食 ある年は ⇒ 蔓作凶作